



児童指導便い

宇都宮市立西小学校
児童指導部

令和6年11月7日号

<http://www.ueis.ed.jp/school/nishi/>



「いじめゼロ」の取組と「親子で考える道徳」



子供たちの「他者への思いやりや規範意識を育むこと」は、本校の学校経営の方針の一つです。一人一人の人権を尊重し、いじめをしない、させない、許さない集団づくりを目指しています。全国でも多くのいじめが小学校で認知されています。主な要因として、冷やかしかからかい等、言葉によるものが半数以上とされています。スマートフォンやゲーム等のメディアの発達により、子供たちが過激な言葉に触れる機会が多くなっていることから、日常会話の中にも、友達への配慮の足りない言動が目立っているように感じます。本校では、学級で考えた「ふわふわ言葉」を掲示したり、道徳の授業を実施したりする等、いじめの根絶に向け、様々な活動をしてきました。その中のいくつかを紹介いたします。

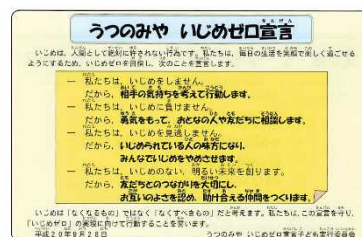
○ポスターや標語の掲示



人権意識を、常に高められるように、学級内や校内に様々なポスターや「いじめゼロ標語」を1年中掲示しています。

○代表委員の活動、いじめゼロ標語作成

代表委員の児童が中心となり、「いじめゼロ集会」が開かれました。全児童が考えた「いじめゼロ標語」を、学級の代表児童が発表しました。そして、「宇都宮市いじめゼロ宣言」を全員で唱和しました。「いじめをしない・負けない・許さない」、その思いを深く胸に刻みました。全員のいじめゼロ標語は、いつも児童の目に触れ、意識を高めることができるよう、各階の廊下に掲示してあります。



○道徳の授業

思いやりや公平の内容を扱った道徳授業を実施しました。西小では、児童が思いやりをもって人と関わるができるよう、「考える道徳」を実施し、道徳の授業に、力を入れています。

○学校生活アンケートや教育相談の実施

年2回の教育相談に加え、年4回の学校生活アンケートを実施し、児童の相談にのり、児童理解に努めています。



★いじめ防止標語 優秀賞★

1年	近藤 源香	いじめかなあ まちがえちゃったら あやまろう
	郷間 蒼馬	こまっていたら いつでもぼくが たすけるよ
2年	西宮 詩織	いじめはね ことばだけじゃ ないんだよ
	湯澤 由佳	つらいとき そうだんしてね ともだちに
3年	新里 優	力を合わせて 学校全体 いじめゼロ
	岩井 奈緒	まよわずに 自分が動けば みんながかわる
	上野ひかり	言うまえに 相手の気持ち 考えて
4年	神永ひより	思い切って 助ける勇氣 持ってみよう
	藤井 あかり	やめようと いえるような ヒーローに
	吉田 陽咲	思いやり それこそ大事な キーワード
5年	高木奈央人	ぼくたちで 世界のえがお 作り出せ
	夏目 麻生	なにげない 言葉の重さ 考えよう
6年	齋藤 ここな	かわいそう そう思うだけじゃ 救われない
	風間 武仁	その言葉 一つの命 うばうかも

○親子で考える道徳

一人一人の違いや、得意不得意を認めること、自分や友達のかけがえのない名前を大切にすること、インターネットでのやりとりの問題等、保護者の皆様と考える「親子で考える道徳」を実施しました。ご理解とご協力をありがとうございました。家庭で、お子さんと一緒に考えることで、思いやりの心や規範意識を高めていきたいと思ひます。また、取り組んだ課題を見童指導だよりにて全校で共有することで、さらに道徳的心情を育むきっかけとしていきたいと思ひています。



できないことは、みんなある

子どもたちは、できないことがあっても恥ずかしくないんだと再認識したようです。一緒にやろう。大丈夫だよと声を掛けたいと思ひたようです。



わたしは、てつぼうがにが手です。だからわたしは、学校の休み
じかに、てつぼうで まえまわりの れんしゅうを していました。する
と、ともだちがきて、
「まえまわり できないの。どうして できないの。」
ときかれまし。わたしは、とても こまりまし。 そのとき、「できな
いことは、みんなあるのに。」とおもいまし。
つぎの日、わたしは、また、てつぼうの れんしゅうを していました。そ
こへ、きのうと おなじ ともだちがきまし。 また おなじことを い
われまし。 わたしは、また こまりまし。 できるよにな
りたいから れんしゅうしているだけで、なぜ できないのかを きかれても
じぶんでも わからなかつたからです。 そのとき、ちかくで はなしを き
いていた ともだちが、
「できないことは、みんなあるよ。」
といってくれまし。 それを、きいて、わたしは げんがまし。 わ
たしも、そのともだちと おなじことを おもっていたけれど、できないこと
が はずかしくて、じぶんの口からは、いうことが できなかつたのです。
でも、ともだちが、そういつてくれたおかげで、わたしは、「できないことは、
はずかしいことではない。」と、おもえるよになりまし。
それから わたしは、まえまわりの れんしゅうを すこしずつ つづけて
います。 まだ できるよにな っていないけれど、まえよりも からだ
が まえに たおせるよにな ってきました。 ほかに、にが手だつた
のぼりぼうにも チャレンジして、はんぶんぐらい のぼれるよにな りま
し。 「できないことは、みんなあるよ。」という あのことばが、わたしに
がんばるパワーを くれます。 もし、わたしと おなじよにな できないこ
とが はずかしいと おもっている ともだちがいたら、わたしは、そのとも
だちに つたえたいです。
「できないことは、みんなあるよ。」

人権に関する文集「あすへのびる」第三十八集（栃木県教育委員会より小学一年生の作文）



～道徳について、お子さんと一緒に考えてみた感想～

【1年生の保護者より】

- 「できないこと」に目を向けるのではなく、「できること」や「チャレンジしていること」に目を向けることが成長につながると思ひます。お友達が元気になる言葉を掛けられる人になってほしいです。
- 皆にできることができないと恥ずかしいと思ひたり、できないことを見つける方が簡単だと思ひたりする場面があるけれど、子どもたちには、「あの子は、〇〇は苦手だけど、〇〇はすごく上手。」という考え方ができるよう、サポートできたらと思ひます。
- どのような言葉や態度、仕草や雰囲気、友達にいやな思ひをさせるか気付くことができたのではと思ひます。自分がされて嫌なことは人にもしない。常に感謝の心をもって接することのできる子になってくれたらよいです。
- どうしても他の子と比べてしまいがちですが、子ども一人一人の個性を認めていきたいです。
- 難しかったけれど、やさしい言葉をかけることや、みんな違いがあつてみんないいということを、考えられたようでした。

【2年生の保護者より】

- 誰にでも、できることやできないことがあります。努力する人を笑ったりバカにしたりするのはよくない。あきらめずに前を向くことで努力は実を結び、実らなかつたとしてもチャレンジする気持ちを持ち続けてほしいです。
- 自分で、友達のそれぞれの個性を認められるよにな 育ってほしいです。
- 頑張っているときに、どんな言葉をかけてほしいか、たくさん考えていまし。子どもが頑張っているときに親が掛ける言葉にも気を付けていきたいです。
- できないことばかりを見るのではなく、できなくても頑張ることやチャレンジすることが大切であると気付ける人にな してほしいです。
- 「できないことはみんなある。」という言葉をつえて、前向きにチャレンジしてほしいです。
- 自分は気にならないことでも、相手は気にすることがあります。人と自分の違いを認めるところからいじめがなくなるのではないかと思ひます。学校でもそれ以外でも、みんながお互いを思いやれるよにな るとよいと思ひます。